

理事会と総会の開催

5月13日、理事会と総会を開催しました。理事会において、伊木常昭事務局長が退任し、篠原大作事務局長が新たに事務局長に就任しました。伊木前事務局長は引き続き理事として運営に携わります。

総会終了後に講演会「子どもの貧困と自立」を開催しました。こどもの夢ネットワーク事務局長の藤田毅氏をお迎えし、子ども達が置かれている実情についてお話をうかがいました。実際の現場で子ども達に関わられている藤田氏の話に、参加者は熱心に耳を傾けていました。質疑応答では、参加者から多くの質問があり、子ども達のより良い未来について考えるととても貴重な機会となりました。



伊木前事務局長より挨拶

8年間在職中、会員、寄付者の皆様に、そして、ボランティアの皆様に大変お世話になり、深く感謝いたしております。特に空港の募金箱にいただく寄付金を回収して事務局に送ってくださるボランティアの方々のご労苦は格別です。コイン仕分けに参加してくださる方々、災害などの際すぐに立ち上がって下さる女性のボランティアの方々、心よりお礼を申し上げます。支援事業に関わり、生きがいを感じることができた幸いな8年間だったことにも深謝しております。

篠原新事務局長より挨拶

日頃よりご支援ご協力頂いておりますみなさまの思いをしっかりと支援活動につなげていき、多くの人々が安全で安心して暮らせるまちづくりに寄与していきたいと思っております。みなさまの引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。

新千歳空港と那覇空港に募金箱設置

2015年12月18日、新千歳空港に募金箱を設置しました。国際線出発ロビーと国内線の出発ロビーにあるレストラン街のエレベーター付近にあります。2016年6月2日には那覇空港の国内線旅客ターミナルビル2階の出発ゲート内「免税店・商品受取りカウンター南店」の付近に設置しました。各空港の募金箱では、熊本地震支援募金をはじめ、国内外の支援事業への募金を承っております。日本円だけでなく、海外のコイン・紙幣（現在使用されていないものも含む）も受け付けております。ご協力をお願いいたします。



那覇空港に設置された募金箱

国連ハビタット推進議員連盟総会



5月31日、国連ハビタット推進議員連盟総会が開催され、当協会からマリ副会長他3名が参加しました。議題は10月17日～20日にエクアドルのキトで開催される第三回国連人間居住会議（ハビタットIII）でした。ハビタットIIIは20年に一度開催される国連ハビタットの重要会議です。この会議で採択される「ニュー・アーバン・アジェンダ」に急激な都市化に関しての日本の知見をしっかりと盛り込むための話し合いが行われました。

★★ ご協力いただきありがとうございます ★★ 2015年12月1日～2016年6月（敬称略・順不同）

ご寄付

国際ソロプチミスト 熊本-さくら・長崎・ガーランド・北九州-南・日田・北九州、佐賀-東部・杵岐、福岡空港ビルディング(株)、熊本空港ビルディング(株)、(株)新橋スタンプ商会、成田国際空港(株)、関西国際空港(株)、東京国際空港ターミナル(株)、北海道空港(株)、中部国際空港(株)、博多港開発・西部ガス共同事業体、蘆野進、鈴木快枝、立花成子、平井功、飯田綾、薄井幸久、篆道会、大橋書店、長島定則、中村勇、中川雅文、中井禮子、丹羽浩康、石原信雄、常光チエ子、松本正子、山際則子、山浦玄梧、左々和子、佐々木佳代、(株)しげ吉、家庭料理の店季、季節料理の店堀江、NPO法人グラウンドワーク福岡、松花堂、原田孝一、金井敏、一般社団法人お茶結びプロジェクト、(有)岩田時計店、ハビタット福岡市民の会会員、加藤弘子、(有)ワンス・ワン・ヘアークリエイション・イチノセ、阿部和子、(株)ステージライン、湘南国際マラソン実行委員会、アズビル(株)、湘南国際マラソン事務局、(株)三森コーポレーション、(有)カーパーツマルサ、社会医療法人天神会、関口芳央、鍋切順子、ステーク将門、子育て支援サークルWork it out、宮本知枝、丹波佐和子、利根川大知、田野井弥生、野田泰子、野崎美知子、カスガベヨシヒコ、白水真由美、広田邦彦、今井一彦、宮田秀子、AFRIKUOKA実行委員会、アジアの女性と子どもネットワーク、滝澤進、伊木常昭、マリ・クリスティーン、山本博子、篠原大作、藤田美江子、清水雅子、大木京子

切手・書き損じハガキ等 成田国際空港(株)、住友商事(株)、全日本空輸(株)、佐藤銀子

ご協力いただいた方及び団体

樋口謙一郎、ニューサンノー、(株)新橋スタンプ商会、ソフトバンクモバイル、ハビタット福岡市民の会、地球環境基金、ちよだボランティアセンター、シトリックス・システムズ・ジャパン(株)、認定NPO法人ふるさと回帰支援センター、(有)マレイアソシエイツ、岩手大学、シャンドゥミュリエ、(社)日本フィナンソロピー協会、ジャパングビング、三井物産(株)、(公財)三菱商事復興支援財団、あおぞら銀行、(株)アイ・コミュニケーションズ、(株)ジェーシービー、(株)たんばぼ農園ふるさと研究所、千代田鍛冶町郵便局、久留米運送(株)、wara no bag、こどもの夢ネットワーク、ハビタットフレンズ東京・名古屋・仙台・九州・ユース・ハワイ、塚越勝美、長谷川隆徳、小泉邦夫、佐藤昭二、丹波佐和子、小野雅恵、林富子、平良サキ子、白浜靖彦、中嶋健治、松田美幸、堀保子、堀寛紀、大石カンナ、古川裕里子

コイン仕分けにご協力いただいた企業・学校

(株)東芝、東都積水(株)太田工場、(株)ジェーシービー、シトリックス・システムズ・ジャパン(株)、全国労働者共済生活協同組合連合会、弘前大学教育学部付属中学校、栗原市立若柳中学校



発行：認定NPO法人日本ハビタット協会（発行責任 篠原大作／編集責任 山本博子）

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館5階 福岡県東京事務所分室内
E-mail：info@habitat.or.jp／URL：http://www.habitat.or.jp

TEL／FAX：03-3512-0355

デザイン・イラスト：母袋秀典

2016年7月発行



JAPAN HABITAT
ASSOCIATION

HABITAT
まちづくり通信 No. 29

.....日本ハビタット協会.....

平成28年熊本地震支援事業

4月14日21時26分に熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード6.5、最大震度7の地震が発生しました。その約28時間後の16日1時25分にもマグニチュード7.3、最大震度7の地震が発生しました。消防庁の発表（6月7日付）によると、死者49名、負傷者1,663名、28,000戸以上の住宅が全半壊するという大きな被害を受けました。6月15日現在でもまだ6,000人を超える方が避難所での暮らしを余儀なくされています。日本ハビタット協会はハビタットフレンズ熊本と連絡を取り、被災状況と必要とされている物資を確認し、支援を開始しました。

今後の中長期的な支援が求められると予想されます。被災された方々が一日も早く安心して暮らせるよう、常に変化する被災状況と被災された方々のニーズに合わせた支援を行っていきます。

熊本大地震を体験して ハビタットフレンズ熊本：佐藤 昭二さん

この度の熊本大地震発生において、今まで一度も体験したことのない「恐怖」と「喪失感」に遭遇し、いまだ何かにつけ廻ってきます。昔より安心な生活は「大地に根を張るように」とか「地に足をつけて」と云うことが安心の基準でありました。今回はその基準の大地が大きく揺らいでいるのです。

4月14日夜9時30分頃、轟音と共に家が揺れだしたのです。正に闇の中で「家が踊りだした」のです。4月16日深夜1時30分頃の本震時には一瞬「死」というものを考えたほどです。幸いにして我が家はガラス類の食器等が壊れただけで、怪我人もなく全員無事でした。

翌々日、南阿蘇村震源地近くに暮らす写真家の友人宅を訪ねたとき、そこは爆撃をものに受けたような状態でした。さらに震源地近くの黒川に行くところ集落のものが崩壊してしまった状態です。大自然の前において人間はなんと非力であることか…。

そんな状況の中、私が所属している「日本ハビタット協会」からの物資支援の申し出がありました。暗闇にあって一条の光が見えた気持ちでありました。これは被災者全員の気持ちであったと思います。人間のつながり、弱い人間が寄り添いあい、助け合っていくことが如何に大事であるか、この度の災害によって深く知らされました。支援物資の申し出と共にあたたかい励ましの言葉かけが、被災者に最も勇気を与えることと感じました。

人と人とのつながりを大切に

副会長 マリ・クリスティーン

4月14日夜、ニュース速報が流れ、熊本のまちが揺れている様子が映し出された時、「また大災害!」と私は大きな不安に襲われました。熊本と福岡のハビタットフレンズの方々が心配で、さっそく安否確認をし、無事の知らせに胸をなでおろしました。

4日後、熊本から被災されて大変な中、詳細な被害状況の連絡が届きました。福岡と連絡を取り、すぐに支援を開始しました。熊本と福岡の間を東京の事務局が取り持ちながら、最速の支援を目指したのは5年前の東日本大震災の時の仙台、山形と同じです。



多くの店舗で募金箱設置にご協力いただいています。

私が誇りに思っているハビタット協会の特徴的な活動のひとつに、国内の各所で活動するハビタットフレンズの存在があります。ハビタットフレンズは、日ごろ自分たちの地域で国連ハビタットの活動や途上国支援の重要性を広報し、募金の回収等でハビタット協会を力強く支えて下さっています。そして、ひとたび国内や海外で災害が起きると、必ず行動を起こします。今回も被災地となった熊本と福岡以外に仙台、東京などから熊本支援の申し出が立て続けにありました。

人のつながりが希薄になっている現在、このように周りの人のことを思いやり、自分のことのように考え、行動するということは本当に素晴らしいことです。災害という非常時には、このような点と点が線になり面になっていくネットワークが、何よりも心強く大切なのだということを今回も痛感しました。今後も人と人とのつながりを大切に、ネットワークを広げていこうと決意を新たにしました。



Photo by：長野 良市(写真家)

熊本地震復興支援募金にご協力をお願いします

●郵便振替 00150 - 3 - 568405 日本ハビタット協会
※ 振込用紙の余白に「熊本支援募金」とご記入ください。

●三井住友銀行 麹町支店（普通） 9121975
特定非営利活動法人 日本ハビタット協会

●クレジットカード（VISA、Master Card）でも
ご寄付いただけます。
日本ハビタット協会のホームページより手続きをお願いします。
▶ www.habitat.or.jp



Photo by：長野 良市(写真家)



避難所でも活用されている防災グッズ

地震が発生してから25日後の5月8日、熊本市男女共同参画センター「はあもにい」が拠点避難所となりました。さまざまな物資が届けられる中、生活が落ち着いてくると、きれいな色で香りのいいアロマグッズなど五感を刺激する贈り物にとても癒されたという声もありました。「はあもにい」では、様々な NGO/NPO 団体などの協力を得て、性被害・DV の啓発事業、母子の心のケア、ひとり親の就労支援などを進めています。また、市内のすべての拠点避難所を巡り、内閣府の避難所チェックシート※を元に、男女の違いや子育て家庭などの多様なニーズに配慮した避難所運営の状況調査をされています。

男女別の物干しの提案がされても「そうすることで、返って女性用の下着があることが明確になり、トラブルが発生することが怖い」などの意見があったり、性被害・DV の啓発事業を行えば、不必要に煽っているのではないかという声があがったりと、理想と現実の悩ましいギャップに遭遇します。また、避難所運営で最も大切なことのひとつは、支援者支援です。特に、行政職員は自らが被災者であるにもかかわらず、住民のためにがんばり疲弊しています。避難所に意見箱を置くことについても、「これ以上の苦情を抱え込めるだろうか」と支援者を追い詰めることのないような配慮が必要です。

※ 内閣府の避難所チェックシート

http://www.gender.go.jp/policy/saigai/ikenkoukan/pdf/ikn_03_01_03.pdf

日本ハビタット協会福岡支部より

堀 保子

熊本で地震が起きた4月14日夜、福岡でも地震速報が鳴った後、大きく感じる揺れがありました。3歳の双子と0歳の3人子どもたちを安全な場所に寝かせ、地震情報を探すと熊本地方を震源とする最大震度7の地震。地震速報が鳴る度にドキドキしながら、横浜在住時に体験した東日本大震災を思い出しました。「怖かった…」熊本の方は、どんなに驚き不安だった事でしょう…。

4日後の18日、ハビタットフレンズ熊本から東京事務所を通じて、高齢の方や乳児に配慮した物資の要望が届きました。子育て中の身としては、普通食が食べられない子ども達や狭い避難所での生活が頭に浮かびます。アレルギーにも対応した離乳食や粉ミルク、乳児から使えるウェットティッシュや石鹸、加圧ソックス、水のいないシャンプー等考え付くものをリストアップしながら、夕方、昼間働いているスタッフと合流し、仕事から帰宅した夫に子どもを託し、支援物資を調達しました。支援活動をしていると知った近所の方や親戚・友人等からも多くのご寄付いただきました。3歳の息子達も「熊本の人は、地震で大変だもんね。」と学生ボランティアさんと一緒に買い出しや荷造りのお手伝いをしてくれました。

4月22日みんなの思いをのせ、ハビタットフレンズシップ便第1便が、熊本県山都町に向けて出発しました。その翌週には第2便として、熊本市男女共同参画センター「はあもにい」からの要望を受けて、避難所や自主避難している女性への支援物資として、下着や身を守るための防犯ブザーや懐中電灯などを送りました。さらに、ハビタットフレンズ仙台のメンバーからドライフルーツ等100パックが届き、6月13日に第3便として熊本に届けました。

被災された方が、1日でも早く安心した環境で落ち着いた生活が送れることを強く願っています。



写真：上… 支援物資の荷造りを手伝う子どもたち 下… ハビタットフレンズシップ便 第1便

ラオスの子ども達の笑顔あふれるまちづくり



写真：上… 給食室 下… 養鶏場

★★ 教科書プロジェクト

ラオス政府や教育局からの支援が十分でないため、子ども達の教育環境はとても厳しいのが現状です。都市部から離れた学校では、生徒数に対して教科書が全く足りていなく、4～5名の生徒が一冊の教科書を共有しながら使っています。母国語であるラオス語の教科書ですら足りていない状況です。山岳部で暮らす民族の子どもは独自の民族語を持っている場合もあるため、ラオス語を学ぶことはとても重要です。基本的な教育をしっかりと受けられるように、生徒数に合わせてラオス語や算数、歴史の教科書を届けます。さらに、教科書だけでなく、こども達が読書を通して、豊かな時間を過ごせるように絵本や物語、伝記なども送ります。

日本ハビタット協会は昨年度までに11の小中学校に1,200冊の本を送りました。それらの学校では、放課後の教室や図書室で楽しく本を読んでいます。また、本の貸し出しも行われるようになり、家でも読めるようにもなりました。今年度は小中学校5校に600冊の本と教科書を届けます。子ども達が楽しく勉強ができるよう、本を通じてさまざまなことを学べるよう、みなさまのご協力をお願いいたします。

★★ 1日3食プロジェクト

アジア最後のフロンティアとして今注目を集めているラオス。経済が少しずつ発展していますが、貧困はまだまだ根強く貧富の格差も拡大もしています。特に、病気や事故、地雷により両親もしくは片親を失くした子どもの生活はたいへん苦しい状況にあります。

親を失った孤児や遺児は孤児院もしくは寮のある学校に預けられ、寮で暮らしながら学校生活を送っています。ラオス政府から補助金として、一人当たり月200,000ラオスキップ（日本円で約3,000円弱）が支給されていますが、十分とはとても言えません。一日2食の食事と飲料水だけでほとんどなくなってしまいます。健やかな成長を促すための適切な食量と栄養バランスのある食事が取れていないことで、子ども達の成長が著しく阻害されています。

養鶏場を建設し、寮生活を送る子ども達が一日3食をきちんと食べることの出来る環境を整え、こども達が元気に学校生活を送れるように支援していきます。育てた鶏や卵は食べるだけでなく、市場等で販売することもでき、学校の現金収入につながります。得た現金を食糧調達や学校設備改善、備品類購入に充てることで、教育環境の改善も期待されます。



1人一冊の教科書があれば勉強も楽しくなります 蔵書が増えた図書室の棚

子ども達の笑顔があふれるまちづくりを応援して下さい

ラオスの子どもの支援に使われます

- 郵便振替 00150 - 3 - 568405 日本ハビタット協会・まちづくり基金口
※ 振込用紙に「子どもの笑顔」とご記入ください。
- クレジットカード（VISA, Master Card）で日本ハビタット協会 HP からご寄付いただけます。▶ www.habitat.or.jp

わかるかな？

ハビタットクイズ

今回はアメリカとユーロの
コインに関する問題だよ！

Q1

アメリカの25セントコインは、各州で発行される州コインもあるんだ。次の国立公園がデザインされている州はどこ州か線で結んでみてね。

1

ヨセミテ国立公園

2

グランドキャニオン国立公園

3

クレーターレイク国立公園

4

マウントラッシュモア国立公園

5

マウントレーニア国立

6

オレゴン州

7

サウスダコタ州

8

ワシントン州

9

カリフォルニア州

10

アリゾナ州

Q2

次の建物の中でユーロのコインのデザインになっているものが2つあるよ。選んでね。

1

ギリシャ パルテノン神殿

2

ブランデンブルク門

3

ローマコロッセオ

4

サグラダファミリア教会

③ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿